

Smile Woman!  
インタビュー④  
 この人の仕事のかたち  
どこか輝いて見える「仕事」をしているあの人のズームアップ。



Miyoko Soranaka

# 手抜かず妥協しない デザート作りを貫く

女の子がなりたいた職業の、常に上位の「ケーキ屋さん」——見た目にかわり、食べては甘くて美味しいケーキはいつの時代も人に夢や元気を与える。「私はもともとフランス料理がやりたかったんで」と話すのは岡山市南区福田でケーキ店を営む空中美葉子さん。辻調理師専門学校卒業後、東京の有名店「クイーン・アリス迎賓館」でデザート担当になつたことをきっかけにパティシエールの道歩み始めた。

## ◎ 全ての作業に気持ちを込めて

クイーン・アリスへの入社は狭き門にも関わらず、仕事の厳しさから辞めていく人も少なくない。そんな中、彼女はそこで仕事にやりがいを感じ、多くの知識を積極的に学んだ。シエラの石鍋裕氏のもと料理とは、デザートとは何かを追求し続けた。「石鍋氏から一番得たものは、全ての作業に気持ちを込めること」と話す。「何事にも手を抜かない。手を抜けばお客様は離れていく——当たり前のことやり続ける難しさと大切さを実感し、その思いを心と体に刻み込んだ。そして作ることに何においても妥協しない、今の彼女がある。

## ◎ 新鮮な材料のみ使い命吹き込む

東京や神戸で腕を磨いた後、地元岡山の役に立ちたいとの思いから平成21年に岡山での独立開業の道を選んだ。「品質を追求し、納得のいく商品

Cake House Fukuda  
 (ケーキハウスフクダ) 5226-13  
 パティシエール

## 空中 美葉子さん



しか店頭には並べたくない——そのため店は自分一人で切り盛りする選択をした。店頭での販売は母親が手伝っており、二人三脚の毎日。女性が評価されにくいこの業界に、熱い思いと積み重ねた経験で立ち向かう。女性ならではの目線で作られた彼女のデザートは、生き生きとしている。新鮮な材料のみを使い商品に命を吹き込んでいる。「良い物は長持ちしない、短い命の商品を提供し続けたい」。強い信念が伝わってくる。

## ◎ 休みは愛犬と散歩を楽しむ

休みの日は、愛犬と散歩やドライブに出かけることが多いと言う。お気に入りのパン屋さん巡りをすることもしばしば。「大好きなものに囲まれて幸せな時間が過ぎます」と表情を緩めた。ケーキ作りを行っている時の張りつめた空気、真剣な表情とは全く違う、オフの彼女に触れた瞬間だった。魅力的な彼女の手によって、多くの人に笑顔を届けるデザートが作り出されるだろう。